

| 重点取組分野         | 令和 4 年度  |  | 総括 |
|----------------|--|--|----|
|                | 具体的取組  | 自己評価結果   |    |
| 授業改善           | ①合同教科会を充実させ、主体的・対話的で深い学びの視点から、授業づくりや評価の在り方について共通理解を図る。<br>②市学力・学習状況調査の結果分析から課題を明確にして、教材や指導方法を工夫し、学力向上を目指す。<br>③言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育成する。     | ・全教科で共同授業研究会を実施し、授業改善を図ることができた。小中教科会や指導案検討を通して、互いの学習内容や授業の様子等を共有することができ、9年間継ぎ目のない授業づくりについて意識を高めることができた。<br>・ICTの活用では、学校の実態に応じた研修を実施することができた。<br>・今後、共同授業研について、教科や時期、回数等について再考する必要がある。また、学力・学習状況調査の結果を共有し、今後の指導に活かしていけるようにする。   | B  |
| 道徳・人権教育        | ①学校教育全体を通して、生命の尊さを考えさせる指導を行う。<br>②「考え、議論する」特別の教科道徳の授業を充実させる。<br>③児童生徒の交流活動(きりたま)を通して、思いやりの心を育成し、自己肯定感の向上を図る。                                   | ・修学旅行の平和学習の一環で、折り鶴を折ることができた。<br>・中学部では、豊かな心の育成推進校として研究授業を行うために、道徳の研修会を行い、各学級同じような流れで、「考え、議論する道徳」を展開することができた。<br>・「きりたまタイム」で、上級生は下級生の面倒をよく見て、思いやりをもって接することができた。<br>・今後は、小中合同で道徳の授業の充実を図っていききたい。また、「きりたまタイム」に新たな活動を取り入れ、自己肯定感の向上を図る。   | A  |
| 体育・健康教育        | ①体力・運動能力テスト、生活意識調査の結果分析をし、課題解決のための運動や健康教育に継続的に取り組む。<br>②栄養教諭と連携を図り、小学部・中学部でつながりの食育を推進する。   | ・小学部で行っている食育を、中学部でも継続できるように工夫した。月に2回、中学部にて食育通信(バクバクだより)を昼に放送したり、食育掲示板を作り、毎月情報発信をしたりした。<br>・コロナ禍で、栄養教諭が中学部で授業を行うことはできなかったため、来年度は実施したい。今後は、学校保健委員会で小学部と中学部が連携を図るなどして、小中つながりのある食育を推進していききたい。  | B  |
| ESDの推進         | ①教科・総合的な学習の時間・特活等で、SDGsにつながる活動を年間指導計画に明記する。<br>②各単元の学習がSDGsのどこにつながるか、児童生徒が意識しながら学習を進められるようにする。   | ・各教科や領域の年間指導計画に、SDGsのどの目標に当たるかを明記し、SDGsを意識した授業を行うことができた。<br>・国際平和スピーチに、6年生と9年生全員が取り組むことができ、SDGsに関連して、国際平和や国際理解について意識を高めることができた。<br>・今後は、単元の学習において、児童生徒がより一層SDGsを意識することができるようにしていきたい。   | B  |
| いじめへの対応        | ①アンケートや教育相談を通して、いじめの早期発見・早期解決を図る。<br>②学校行事に主体的・協動的に取り組むことにより、自己有用感を高めることができるようにする。   | ・毎月の生活アンケートや教育相談を通して、いじめを早期に発見し、いじめ防止対策委員会を通して組織的な対応をすることができた。<br>・いじめの定義について再確認するとともに、今後も積極的な認知を行っていききたい。5月は記名式でアンケートを行う。   | A  |
| 人材育成・組織運営(働き方) | ①メンターチームが主体的に研修に取り組めるような環境をつくる。小中合同のメンター研修も取り入れる。<br>②小中合同会議を充実させ、9年間継ぎ目のない教育に、教職員が主体的に参画することができるようにする。<br>③教職員が健康にやりがいをもって勤務できるように、組織や環境を整える。 | ・メンターチームの活動として、小学部は、指導案検討や授業改善等の研修を実施することができた。中学部では、実施日を年間計画に位置付け、多くのメンターにかかわってもらい、充実した研修となった。<br>・小学部は不定期であったため、中学部のように年間計画に位置付け、内容については、メンターが主体的に取り組んでいくようにする。また、小中合同のメンター研修も実施したい。  | B  |
| 地域学校協働活動       | ①学校運営協議会を充実させ、委員からの意見を学校経営に反映させる。<br>②地域ボランティアを積極的に活用し、教育活動の充実を図る。<br>③地域の方々から学校の状況を知ってもらうための情報発信に努める。   | ・HPを活用し、保護者や地域へ、継続的に情報発信を行うことができた。学家地連や学校運営協議会は、対面で実施できたことの意義は大きい。<br>・数年ぶりに児童生徒が地域行事に参加することができたこともよかった。   | B  |
| 特別支援教育         | ①SCやSSW、関係機関と連携を図り、見通しをもった指導や支援を行う。<br>②特別支援教育コーディネーターを中心に、小中での情報共有を密に行う。<br>③小中合同研修会を実施し、特別支援教育のあり方について、教職員全員で共通理解を図る。                        | ・児童支援専任・生徒指導専任が中心となって、SCやSSWをはじめとした関係諸機関と連携を図り、支援を必要としている児童生徒に、適切な支援を行うことができた。<br>・専任同士が週に1回以上定期的に情報交換を行うことができた。また、小学部の特別支援教室や学級のサポートに生徒指導専任が入ったり、児童支援専任が中学部の授業を担当したりすることで、児童生徒の理解を相互に深めることができた。   | B  |
| 児童生徒指導         | ①児童生徒指導上の情報共有を大切に、組織的に迅速・丁寧な対応を行う。<br>②社会的スキル横浜プログラムを活用したり、情報モラル教育を継続的に進めるなど、先手を打った児童生徒指導を進める。   | ・児童支援専任と生徒指導専任を中心に、組織的に事案対応を行うことができた。<br>・小中ともに、年2回のYPアセスメントを実施し、日頃の児童生徒指導に活かすことができた。<br>・今後、新規不登校者が出ないように、未然防止に力を入れて取り組んでいきたい。また、別室登校の仕組みについて、特別支援教育担当とも協力して再考したい。  | B  |
| GIGAスクール構想     | ①授業でのICTの効果的な活用を工夫し、個別最適な学び・協動的な学びを推進する。<br>②ICTを活用した情報共有を進め、ペーパーレスを促進する。  | ・授業でのICT活用について推進することができた。全国や市の平均と比べても、使用頻度が高い。学校行事などでも、効果的に活用できるようになってきている。英語では、デジタル教科書を積極的に運用することができた。<br>・職員会議においても、ペーパーレス化を進めることができた。今後、家庭との連絡にもICTを使用することができるようにしていきたい。<br>・職員研修と情報モラル教育は、継続していく必要がある。   | A  |
| 学校関係者評価        |  | ・コロナ禍において、感染防止対策をとりながら教育活動を進めてくれた教職員に敬意を表する。授業の様子から、子どもたち一人ひとりを大事にしてくれていることがわかる。学校行事では、コロナ禍においても子どもたちが成長している様子が伝わってきた。<br>・コロナ禍において、学校と保護者・地域との交流が薄くなってしまったことが気になる。今後少しずつ、交流の場が増えてくることを願っている。<br>・独自教科創設については、本校の必要性に応じて、慎重に検討して欲しい。   |    |
| 評価結果に対する学校の見解  |  | ・「コロナ禍においても学びを止めない」を合言葉にして、教育活動を進めてきた。感染防止への配慮をしながら、小中の教職員が一丸となって、「9年間継ぎ目のない教育」を進めることができた。学校運営協議会の委員から、「子どもたち一人ひとりを大事にしてくれている」という言葉をいただけたことは、嬉しい限りである。<br>・コロナ禍において、保護者や地域の方々に来校していただく機会が減ってしまったことは事実である。来年度は、新型コロナウイルスが5類に引き下げられることを受け、多くの保護者や地域の方々に来校していただき、子どもたちの様子を参観したり、学習をサポートしたりしてもらえることを願っている。また、学校からも、地域行事に参加し、児童生徒や教職員が地域の方々と交流できるようにしていきたい。 |    |
| 中期取組目標振り返り     |  | 「課題解決のために情報を収集・整理・分析し、まとめ・表現する学習活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を図り、9年間継ぎ目のない教育を推進する」ことを中期取組目標として教育活動を進めてきた。ICTを効果的に活用して、「個別最適な学び」と「協動的な学び」を一体的に充実させることは、一定の成果を収めることができた。共同授業研究会は、昨年度よりも前進させることができたが、9年間で育成する資質・能力を育むために、授業研究会の在り方等をより一層工夫していく必要がある。来年度は、「コミュニケーション」「表現」を意識した授業づくりを推進していきたい。  |    |